

中国における図書館情報学教育の変遷および展望

李常慶

本稿は中国における図書館情報学教育の歴史的な流れを把握した上で、現在、広範囲に行なわれている主要な図書館情報学の教育形態を整理した。それにもとづき、中国における図書館情報学教育の改革および現状を分析し、さらに中国の図書館情報学教育の課題および展望を考察した。これらの検討を通じて、中国の図書館情報学教育発展の歴史と動向およびそこで展開されている諸改革を明らかにし、今後の発展動向を一定程度明らかにしえた。

目次

はじめに

1. 中国における図書館情報学教育の沿革
 - 1.1 短期図書館員講習会（1920～30年代）
 - 1.2 図書館学課程（1920年代）
 - 1.3 中華図書館協会と図書館学教育（1920～1940年代）
 - 1.4 図書館専門学科（1920～1930年代）
 - 1.5 戦乱の時期（1937～1945年）
 - 1.6 中華人民共和国の成立から文化大革命まで（1949～1966年）
 - 1.7 文化大革命の時期（1966～1978年）
 - 1.8 図書館情報学教育の発展（1978年～1990年）
 2. 中国における図書館情報学の主要な教育形態
 - 2.1 本科（4年制）教育
 - 2.2 大学院教育
 - 2.3 函授（通信）教育
 - 2.4 研修生教育
 3. 中国における図書館情報学教育の改革および現状
 - 3.1 図書館情報学教育機関の名称変更およびそれに伴う教育改革
 - 3.1.1 図書館情報学教育機関の名称変更およびその背景
 - 3.1.2 学部名称の変更に伴うカリキュラムの改訂
 - 3.1.3 図書館情報学教育機関の改称およびその後の動向
 - 3.2 近年における図書館情報学教育の改革と動向
 - 3.2.1 大学および学部・大学院教育の改革
 - 3.2.2 カリキュラムの再編
 - 3.2.3 北京大学信息管理系の学部卒業生と大学院生の就職動向
 - 3.2.4 中国における図書館員の専門職制度および資格認定の動き
 4. 中国における図書館情報学教育の課題および展望
 - 4.1 図書館情報学の学部レベル教育の問題
 - 4.2 カリキュラム編成の問題
 - 4.3 国家教育部による図書館情報学専攻目録の選定
 - 4.4 図書館職業資格認定制度の導入に伴う育成訓練教育実施の可能性
 - 4.5 図書館情報学専攻大学院教育の拡大
- おわりに
注・引用文献

はじめに

1990年代に入り、インターネットなどを中心とする新しい情報技術の発展や社会的情勢の変化などによって、世界的に図書館情報学教育は難しい局面に立たされている。それと同時に、これからの発展の道を模索する多くの努力が見られるようになってきている。「文化大革命」が終結した1980年代に中国の図書館情報学教育は大きな発展を遂げたが、その反面、1990年代になると様々な深刻な問題が現れ、図書館情報学教育が困難な状況に迎え、その打開をめざし新しい道を模索してきた。

本稿はまず中国における図書館情報学教育の沿革をながめ、中国の図書館情報学教育の歴史的な流れを把握した上で、現在、広範囲に行なわれている図書館情報学の主要な教育形態を整理する。それにもとづき、中国における図書館情報学教育の改革および現状について分析を加える。そして、最後に中国の図書館情報学教育の課題および展望を考察する。この検討を通じて、中国における図書館情報学教育の歴史および現状を明らかにした上で、今後の中国図書館情報学教育の発展の可能性を模索したい。

1. 中国における図書館情報学教育の沿革

1.1 短期図書館員講習会（1920～30年代）

中国における図書館学教育は、1920年代初期からはじまった。図書館職員や大学の教員らによって、図書館学講習会が開催されたり、高等師範学校や大学で図書館学の講義が開講された。例えば、1920年（民国9年）の夏、北京高等師範学校は各省の要請に応じて、夏季休暇図書館講習会を開設した。戴志騫、程伯廬、沈祖栄などが講義を担当した。聴講者は各省立図書館および学校図書館員から構成されていた。その後、広州において広東図書館管理員養成所が設立されたり、南京の東南大学で図書館学暑期学校が開設された。そのほか、河南省の開封や四川省の成都、江蘇省の蘇州などで相次いで短期図書館学講演会が行われた¹⁾。講習会の講師のほとんどは欧米などで図書館学を学び、中国に帰国した留学生で占められていた。

1.2 図書館学課程（1920年代）

1921年（民国10年）、中華教育改進社図書館教育組が各師範学院および高等師範学校に図書館科設立の案を出すことを決定して以来、各省の師範学校が次第に図書館学の科目を設置するようになった。1921年に杜定友を校長とする広州市立師範学校で最初に図書館科が設置された。また、1924年には江蘇第二師範学校が毎週上級の学生を対象として図書館学の授業を2時間行なっている。この科目を取った40余人の卒業生の中には大学および小中学校の図書館に勤務する人が多く、その中で更に図書館学を研究し、図書館の専門家となった人が何人もいた²⁾。

1.3 中華図書館協会と図書館学教育（1920～1940年代）

1925年6月2日、図書館員の全国団体である中華図書館協会が設立された。同年9月、同協会は図書館教育委員会を設置し、毎年、年次大会において図書館学教育について討議を行なうこととした。1929年1月の第一回年次大会で図書館学教育に関する提案がなされ、その提案は23項目に上ったという³⁾。当時、協会は主に二つの形態で図書館員の養成を行なっていた。一つは正式な学校教育であり、もう一つの形態は講習会や訓練班、通信学校教育であった。協会は文華大学図書科と協力して、毎年約10名の図書館学公費生（大学で2年以上在学している学生を対象とする）を募集し2年課程の教育を行なった。

1930年に講習班を作ったときには、15名の中学校卒業生を募集し、1年課程で実施した。そして、協会は大学に図書館学科と専修科を設置することとした。これによって、金陵大学や大夏大学、嶺南大学などで図書館学科が設置され、1947年の秋、国立北京大学に図書館学専修科が設置された⁴⁾。

1.4 図書館専門学科（1920～1930年代）

中国各地で図書館学講習班などが実施される一方で、1920年3月、アメリカ人のウッド女史（Mary Elizabeth Wood、中国名：韋棣華）⁵⁾と中国人沈祖栄と胡慶生によって中国における最初の図書館学教育の専門教育機関である武昌文華大学図書館が設立された。この図書館はアメリカのニューヨーク州立図書館学校の制度にならって、大学で2年の課程を終えた学生を編入させ、2年課程の専門教育を行なうものとしたのである。その後、大学卒業生ないしは大学で2年間以上在学した者が入学試験に合格すれば、入学を認めた。1925年、文華大学が改組されて、華中大学となり、文華大学の1学科であった図書館は、それに伴い名称を華中大学文華図書館と改めた。1927年秋、華中大学は廃校になったが、廃校後も文華図書館は引き続き単独で運営され、1929年9月に華中大学が復活したとき、再び華中大学の1学科となった。1930年12月1日より正式に「武昌私立文華図書館学専科学校」の印章を用い、1931年に正式に華中大学を離れ、独立の図書館学専科学校（以下、文華図専と略称）となった⁶⁾。

1.5 戦乱の時期（1937～1945年）

1937年から1945年までの中日戦争と、4年間の国内戦争が続いていたので、中国の国力は非常に疲弊し、それにもない図書館学教育も大きな影響を受けたことは言うまでもない。一時的に図書館員講習会が開催されることもあったが、全体的にほとんど停滞の状態であった。戦争のため、文華図専は1938年の秋、重慶に移転した。1940年から入学資格を高校卒業生としていたのを改め、2年課程としたこともあり、教育の質は低下した。このような状態のもとで、1949年まで中国の図書館学教育には大きな進歩が見られなかった。

1.6 中華人民共和国の成立から文化大革命まで（1949～1966年）

1949年10月1日に、中華人民共和国が成立した。それによって、社会的・政治的に安定し、図書館学教育に大きな進展が見られた。1952年に大学や学部の調整（院系調整）⁷⁾が全国的に行なわれたため、翌年、文華図専は武漢大学に編入され、武漢大学図書館学専修科となった。1955年に2年課程を3年課程に改め、さらにその翌年には名称を武漢大学図書館学系に変更し、4年課程とした⁸⁾。ほぼ同じ1953年に北京大学も2年から3年課程の専修科となり、1956年に4年課程の図書館学系に改組した⁹⁾。この二つの大学のほか、西南師範学院に図書館専修科、社会教育学院に図書館博物科が設置されていた。しかし、このふたつは長くは続かなかった。

1958年以降、図書館学教育には新たな進展が見られた。北京大学と武漢大学図書館学系が学生数を増やしていったのと相前後して、吉林師範大学、中国科学技術大学に新しい図書館学専修科、北京文化学院に図書館学研究班、河北文化芸術幹部学校、湖南文化芸術幹部学校、四川省財政貿易幹部学校などにそれぞれ図書館専門班が設置された¹⁰⁾。これらの専修科と専門班は1962年前後に廃止されることとなったが、3、4年という短い期間ではあったが、その間に図書館界に専門教育を受けた人を少なからず輩出したことは評価できる。

1.7 文化大革命の時期（1966～1978年）

ところが、その後一連の政治運動、特に文化大革命の影響を受けて、図書館学教育は大きな挫折と破壊を蒙った。文化大革命最中の6年間、図書館学教育はほとんど停滞の状態に陥り、学生募集が行なわれなかっただけでなく、教員も離散し、資料は散逸し、専門研究はまったく行なわれなかった。1970年には全国の他の多くの専攻課程が学生募集を再開したが、図書館学教育は依然として再開されなかった。1972年になって、ようやく北京大学と武漢大学が図書館学の学生募集を再開したが、その教育は2年課程であった。1976年に「四人組」¹¹⁾が追放された翌年、北京大学は2年課程から4年課程に強化し、武漢大学は3年課程となった。さらに1978年、武漢大学も4年課程に再編された。このころからようやく中国における図書館学教育は正常な軌道に復帰することになった。十数年にわたる政治運動と社会的混乱によって、中国の図書館学教育は大きな打撃を受け、先進諸国に比べると、質的にも量的にもかなり遅れてしまった。

1.8 図書館情報学教育の発展（1978年～1990年）

中国の図書館学情報教育が大きく発展し、その規模を拡大していったのは1978年以降のことである。その背景には次の二つの要因が挙げられる。一つは、1978年以降、中国では平均して3.7日毎に1箇所¹²⁾の公共図書館が誕生したことにより、正式な図書館情報学教育を受けた人を大量に必要としたことである。もう一つは、文化大革命期間中、専門教育を受けられなかった図書館員が大勢いたので、これらの図書館員を再教育する在職教育や成人教育が大きく伸びたことである。1980年から1990年の間に、全国では図書館情報学科が4校から52校に増え、大学院図書館情報学修士課程が11校設置された¹³⁾。この間、大学教育を補う成人教育である函授（通信）教育¹⁴⁾も大きく発展し、図書館情報学専攻の学生が大量に募集されるようになった。また、1985年に国家教育委員会（現在の教育部）の許可を得て、中央放送大学の図書館学科も開設された¹⁵⁾。

また、1970年代の末頃から、図書館学専攻以外に情報学専攻が設置されるようになった。そのため、多くの大学はその名称を図書館学系から図書館学情報学系に変更したのであった。

2. 中国における図書館情報学の主要な教育形態

現在、中国における図書館情報学教育は、北京大学の情報管理系と武漢大学信息管理学院を中心として、41以上の大学および短期大学の信息管理系、図書館情報学系あるいは学科で実施されている（附表1を参照）。北京大学と武漢大学はその歴史が古く、ほかの情報管理系および学科のほとんどは1978年以降に設置されたものばかりである。学生は学部の大学生と大学院生および函授（通信）生などからなっている。大学では大体以下の四つの形態で図書館情報学教育が行なわれている。

2.1 本科（4年制）教育

中国における図書館情報学教育の中心は本科生の養成にあり、本科の学制は一般に4年制としている。本科教育は三つの種類に分けられる。一つは図書館学専攻であり、基本的に文科系の学生を募集していることである。二つは科学技術情報（情報学）専攻である。この専攻は1970年代の末頃から80年代のはじめ頃に発展してきたものである。一般的に総合大学に募集された理科系の学生からなっている。例えば、北京大学、武漢大学、中国科学技術大学などの科学技術情報専攻はこれにあたる。三つめは理科・工科・農業・医科科学技術情報専攻である。この種の専攻は1980年代になってから発展してきたものであ

る。科学技術情報専攻の変種で、主に理科・工科・農業・医科大学に設置されている。例えば、中国医科大学、吉林工業大学、南京理工大学、南京農業大学などに設置されているものはこれにあたる。履修科目は情報業務知識やコンピューター応用知識およびその関連の知識のほかに、その習得すべき主要な知識がその大学のそれぞれの専門基礎知識に該当する。

2.2 大学院教育

中国における図書館情報学の大学院教育は大学院修士課程、大学院博士課程および大学院クラスという三つのレベルに分けられる。現在、中国では図書館学修士学位を授与できる機関が17校、情報学修士学位を授与できる機関が28校ある。また、3校が図書館学博士学位を発給でき、4校が情報学博士学位を授与できる（附表2参照）。以下、この3種類の大学院教育について説明する。

一つは大学院修士課程である。標準履修年限は2年から3年としている。二つめは大学院博士課程である。中国における図書館情報学専攻の大学院博士課程教育は、そのスタートが比較的遅く、1991年から院生を募集しはじめた。標準履修年限は3年から5年としている。三つめは大学院生クラスであり、一般的に2年とされており、外国語、哲学および図書館情報学修士課程の10の科目を学び、試験に合格すれば、大学院修了証明書ももらえる。在学期間を通じ、大学院生クラスの学生は指導教官の指定がなく、学位論文も書かない。修了後、学生は勤務先で仕事をしながら、修士学位論文を作成し、完成後、大学に提出し、その論文の審査を受ける。

2.3 函授（通信）教育

通信教育は基本的に在職者を対象として募集している。その種類は二つある。一つは専科通信教育であり、もう一つは本科通信教育である。専科は高校卒レベルの者に限り、標準履修年限は3年としている。これに対して、本科は専科卒または同等学力レベル以上の者であり、3年課程としている。通信教育は独学が主体で、それを補うものとして巡回指導と集中講義がある。

2.4 研修生教育

基本的に大学の教員や図書館の現職者を対象として募集している。主に研究や業務能力などを高めることを狙いとしている。研修生教育には大体、2種類ある。第一の種類は主題別の研究で、第二の種類は主として専門基礎知識を研修するものである。研修生の修業年限は一般的に半年から2年までとされている。

3. 中国における図書館情報学教育の改革および現状

1990年代初期から、中国の図書館情報学教育はさまざまな困難に直面している。以来、図書館情報学教育に関する改革や模索がとどまることはない。総じて、二つの動きがある。一つは1990年代のはじめ頃から1990年代の半ば頃まで進められていた図書館情報学教育機関の名称変更およびそれに伴う教育改革である。二つめは近年図書館情報学教育における改革とその動向である。

3.1 図書館情報学教育機関の名称変更およびそれに伴う教育改革

3.1.1 図書館情報学教育機関の名称変更およびその背景

1992年9月、北京大学が真っ先に図書館学情報学系を信息管理¹⁶⁾系に改称し、全国に

大きな反響を呼んだ。それを契機に、1995年3月まで、全国で52校の図書館情報学系のうち、26校が信息管理系（または情報資源管理系、情報技術与決策科学系、文献信息管理系、情報産業系）などに名称変更を行ったのである¹⁷⁾。

その名称変更の背景は主に以下の理由による。一つは図書館情報学教育機関の過剰が挙げられる。1980年に全国で4校しかなかった図書館学部が1990年代はじめになると52校に増えた。図書館情報学教育機関の過剰またはそれに近い状況によって、学生確保が難しくなってきた。二つめは卒業生の就職の多様化および図書館員の待遇の低さによる。三つめは米国の図書館学校閉鎖の影響である。1978年から1992年までの15年間、米国の14校の図書館情報学校が相次いで閉鎖に追い込まれたこと¹⁸⁾で、中国の図書館情報学界に多大の影響とショックを与えた。

1992年9月、北京大学が図書館学情報学系を正式に信息管理系に改称したのは、図書館情報学教育の改革を深化し、専攻分野の守備範囲を拡大し、すでにあった図書館学と科学技術情報の専攻のほかに、コンサルティング、出版編集、コミュニケーションその他の新たな専攻を増やす計画にもとづくものであった。北京大学図書館学情報学系の名称をそのまま機関の名前として使うと、新たな専攻をカバーすることができなくなる恐れがあり、より広い意味をもつ信息管理に改めたのである。もちろん、社会的に広く知られている「**信**息」を使ったほうが学生就職に有利になるとの判断も背景のひとつにあげられる。

3.1.2 学部名称の変更に伴うカリキュラムの改訂

大学の図書館情報学部の名称変更の背景には、以上挙げたいくつかの要因のほかに、古いカリキュラムが時代遅れとなり、科目編成を見直す必要があるとの主張があった。そのため、1996年度から新しいカリキュラムを試験的に採用した（表3を参照）。

表3 北京大学信息管理系図書館学専攻のカリキュラム

	旧カリキュラム(1991年度)		新カリキュラム(1996年度)
必修科目	古漢語(8), 図書館学概論(3), 分類と主題(4), 中国図書目録法(3), 図書館蔵書(2), 読者業務(2), 図書館管理(3), 外国図書目録法(4), 図書館古籍目録法(3), 中国書史(3), 一般目録(3), 中国図書参考資料(3), コンピュータ原理(3), 図書館自動化(4), 情報学概論(3), 科学技術文献検索(3), 卒業論文(6), 実習二回(8) [必修科目 71 単位]		中国革命史(3), 哲学(4), 資本主義概論(2), 中国社会主义建設(2), 世界政治経済と国際関係(2), 当代人生理論と実践(2), 国防教育(1), 大学英语(14, 18), 体育(4) [以上は全校必修科目 34 単位]。高等数学(文科)(8), コンピュータ基礎(6), プログラム設計言語(4), 図書館学基礎(3), 編集出版概論(3), 文献管理(一): 文献目録(3, 4), 文献管理(二): 分類と主題(4, 5), データの構造(3, 4), 情報の蓄積と検索(4, 6), コンピュータネットワーク(3), 情報法学(2), 情報経済学(2), 情報サービスと利用者(2), 管理情報システム(3), 情報分析と意思決定(2, 3), 文献計量学(3), 卒業実習(4), 卒業論文(5), 社会实践(1) [学部必修科目 67 単位]
選択科目	A 組(15 単位以上) 中国図書館事業史(3), 外国図書館事業史(3), 中国目録学史(3), 外国目録学講座(2), 中国文学書籍目録学(3), 中国歴史書籍目録学(3), 地方誌(3), 図書館建築(2), 特許情報業務(3), 経済情報業務(3), 文献索引技術(3), コンピュータ用語とプログラム設計(4), コンピュータ情報検索(4), 専門図書館(3)	B 組(13 単位以上) 中国文化史(4), 西洋文化史(4), 中国文学史(4), 中国哲学史(4), 外国文学(4), 科学技術発展史(4), 高等数学(3), 社会学(3), 教育学(3), 統計学(3), 論理学(3), 考証学(3), 中国近代史(4), 世界近代史(4), 自然科学概論(4)	情報科学基礎(2), 情報環境論(2), 知識組織理論と技術(2), 政務情報管理(2), 経済情報管理(2), 商業情報検索(3), 特許と特許情報(2), 企業経営と情報利用(2), 線形代数(C)(3), 確率統計(B)(3), 政策決定分析(3), 離散数学(4), パソコン応用基礎(2, 3), システム論(4), データベース・システム(3), 通信原理(4), 科学と科学技術管理(2), マルチメディア技術(2), 中国語情報処理(3), 図書館自動化基礎(4), OA 自動化(3), 電子出版技術(3), メディア研究と管理(2), 著作権法(2), 中国語図書参考資料(3), 外国語図書参考資料(3), 専門外国語(2), 中国文化史(3) [総計 37 単位]

注:(1) 新しいカリキュラムによると,4年間で150単位以上を修得しなければならない。

その中に必修科目 101 単位, 選択科目 34 単位, 任意選択科目 15 単位をそれぞれ修得しなければならない。

(2) 任意選択科目は第二外国語などを指す。

(3) 資料の出所は北京大学信息管理系教学計画(討論稿)による。

表 4 北京大学信息管理系情報学専攻のカリキュラム

	旧カリキュラム (1991 年度)	新カリキュラム (1996 年度)				
必修科目	高等数学(8), 情報学概論(3), 情報検索言語(4), 文献管理(4), 科学技術文献検索(4), 情報分析研究(3), コンピュータ原理(4), プログラミング言語(4), データベース(4), パソコンとその利用(4), 図書館自動化システム(4), コンピュータ情報検索(4), 卒業論文(6), 実習二回(8) [必修科目 64 単位]	中国革命史(2), 哲学(3), 資本主義概論(2), 中国社会主义建設(2), 当代人生理論と実践(2), 国防教育(1), 大学英语(14, 18), 体育(4) [以上は全校必修科目 30 単位]。高等数学 B 類(15), コンピュータ原理(4), プログラム設計言語(4), 情報管理概論(3), 文献管理(一): 文献目録(3, 4), 情報の蓄積と検索(4, 6), 編集業務基礎(2), 文献資源建設(2), 情報サービスとその利用者(2), 中国語図書参考資料(3), 外国語図書参考資料(3), 図書館自動化基礎(4), 電子出版技術(3), 中国図書出版史(3), 社会実践(1), 卒業実習(4), 卒業論文(5) [学部必修科目 67 単位]				
選択科目	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A 組(20 単位以上)</th> <th>B 組(19 単位以上)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特許情報業務(2), 文献工作標準化(2), 経済情報業務(2), ユーザー研究(2), 現代情報技術(2), 中国図書参考資料(3), 外国図書参考資料(3), 外国図書目録法(2), 図書館建築(3), 図書館学概論(3), 情報の摘録(2), 図書館管理(3), 文献検索技術(4), 情報システムとそのデザイン(3), 中国語情報処理(3)</td> <td>離散数学(4), 線形代数(4), 情報論(3), コントロール論(3), システム論(3), 社会学(3), 確率統計(4), 統計学(3), 科学技術発展史(4), 一般物理(8), 一般化学(8), 一般生物学(8), 数理言語学(3), 一般心理学(3), 論理学(3), コミュニケーション(3)</td> </tr> </tbody> </table>	A 組(20 単位以上)	B 組(19 単位以上)	特許情報業務(2), 文献工作標準化(2), 経済情報業務(2), ユーザー研究(2), 現代情報技術(2), 中国図書参考資料(3), 外国図書参考資料(3), 外国図書目録法(2), 図書館建築(3), 図書館学概論(3), 情報の摘録(2), 図書館管理(3), 文献検索技術(4), 情報システムとそのデザイン(3), 中国語情報処理(3)	離散数学(4), 線形代数(4), 情報論(3), コントロール論(3), システム論(3), 社会学(3), 確率統計(4), 統計学(3), 科学技術発展史(4), 一般物理(8), 一般化学(8), 一般生物学(8), 数理言語学(3), 一般心理学(3), 論理学(3), コミュニケーション(3)	情報管理概論(3), 出版経営管理(3), 中国古代文献基礎(4, 6) 中国文化史(3), 普通目録学(3), パソコン応用基礎(2, 3), 中国語情報処理(3), OA 自動化(3), 現代編集レイアウトシステム(3), データの構造(3, 4), コンピュータネットワーク(3), 文献計量学(3), 図書館管理(3), 情報館経論(2), 政務情報管理(2), 経済情報管理(2), 情報法学(2), 著作権法(2), メディア研究と管理(2), 中国歴史文献目録学(3), 中国文学文献目録学(3), 版本学(2), 文化学論著精選読本(2), 書評研究(2), 専門外国語(3), 映画・テレビの編集(2), マルチメディア技術(2), 中国哲学史(4), 外国哲学史(4), 中国文学史(4), 欧州文学史(4), 広告学(2) [総計 34 単位]
A 組(20 単位以上)	B 組(19 単位以上)					
特許情報業務(2), 文献工作標準化(2), 経済情報業務(2), ユーザー研究(2), 現代情報技術(2), 中国図書参考資料(3), 外国図書参考資料(3), 外国図書目録法(2), 図書館建築(3), 図書館学概論(3), 情報の摘録(2), 図書館管理(3), 文献検索技術(4), 情報システムとそのデザイン(3), 中国語情報処理(3)	離散数学(4), 線形代数(4), 情報論(3), コントロール論(3), システム論(3), 社会学(3), 確率統計(4), 統計学(3), 科学技術発展史(4), 一般物理(8), 一般化学(8), 一般生物学(8), 数理言語学(3), 一般心理学(3), 論理学(3), コミュニケーション(3)					

注: (1)新しいカリキュラムによると, 4 年間で 150 単位以上を修得しなければならない。

その中に必修科目 97 単位, 選択科目 38 単位, 任意選択科目 15 単位をそれぞれ修得しなければならない。

(2) 任意選択科目は第二外国語などを指す。

(3) 資料の出所は北京大学信息管理系教学計画(討論稿)による。

1996 年度のカリキュラムは 1991 年度のカリキュラムと比較して, いくつかの新たな特徴が見られる。

(1) 伝統的な科目が縮小または削減された。例えば, 分類や目録法など伝統的な科目の時間数が大幅に減らされ, もともと別々に行われていた中国語図書目録法, 外国語図書目録法, 中国語図書分類, 外国語図書分類の授業について, 中国・外国図書目録法は文献管理(一)という授業に, 中国・外国図書分類法は文献管理(二)という授業に徐々に統合されるようになった。

(2) 必修科目のコマ数が減らされ, 選択科目が大幅に増やされた。

(3) 新しく設置された科目としては, コンピュータや電子技術, 著作権法, メディア研究, 出版編集, コミュニケーションなどの科目が特に重視された。

(4) 新しいカリキュラムの改訂は, 図書館情報学部を信息管理学部へ改称したことと一致しており, これまでに図書館情報学, 特に図書館学専攻に傾いていた科目設置が見直され, 情報学, 出版編集, コミュニケーション, コンサルティングなどの専攻に合わせて, 新しい科目の設置が意図的に行われた。

3.1.3 図書館情報学教育機関の改称およびその後の動向

図書館情報学教育機関の名称変更の是非について、中国の図書館情報学界においては意見が分かれていたが、多くの大学がその名称を信息管理の名称が採用されていった(附表1と附表2を参照)。この名称変更は単なる名称の変更にとどまらず、その後の図書館情報学教育機関の改革が新たな方向に転ずるうえで一定の役割を果たしたものと思われる。それはその後の大学間の合併および学部統合と大きく関係しているからである。

1990年代の半ば頃から、中国では大学間の合併および学部統合による学院の設立¹⁹⁾の嵐が吹き荒れたことで、図書館情報学部または学科が大学におけるこれまでの位置づけは大きく変わった。依然として図書館情報学部が単独の組織として大学に残ったところもある。例えば、北京大学信息管理系と武漢大学信息管理学院などはこれにあたる。その一方、多くの図書館情報学部がその大学の管理学院や经济学院、商学院などに吸収合併された。同じく吸収合併された場合でも、そこに二つの動きが見られた。吸収合併されながらも、基本的に図書館情報学部または学科の独自性が保持されているところがある。例えば、南京大学公共管理学院信息管理系、南開大学国際商学院図書館学系などはそれである。それに対して管理学院や商学院などに吸収合併された後、本来の主体である図書館学教育がほとんどなくなったところがある。代表的な例として、華東師範大学国際商学院信息学系や北京師範大学管理学院信息技术与管理系などが挙げられる。

3.2 近年における図書館情報学教育の改革と動向

3.2.1 大学および学部・大学院教育の改革

これまでに北京大学信息管理系は図書館学専攻と情報学専攻とが別個に学生募集をしてきたが、2003年から信息管理という統一された名称で学生を募集するようになった。また、これまでは学部の教育カリキュラムも図書館学専攻と情報学専攻を分け、その授業は一年生からほとんど別個の構成となっていた。ところが、昨年からは、北京大学は真っ先に教育の改革を行ない、二つの専攻の学部生は一年生と二年生がまったく同じ授業を受けることになり、三年生から本人の希望にしたがい専攻を選べるようになった。また、大学院修士課程は2004年からこれまでの3年の標準学修年限を2年に短縮したが、大学院博士課程は3年の課程を3~5年に改めた。

3.2.2 カリキュラムの再編

このような大学の教育改革および学部レベルの教育改革に合わせて、カリキュラムも2003年度から正式に新しいカリキュラムを採用するようになった(表5と表6を参照)。

この新しいカリキュラムは、従来の1996年のカリキュラムに比べると、次のようないくつかの特徴が見られる。

第一に、4年間に取得が必要とされる単位数が圧縮され、全部で150単位から142単位まで少なくなった。これによって、総じて学生の授業負担をいくらかは和らげることになる。

第二に、全校生を対象とする本科生教養科目の履修が義務付けられることになった。この16単位の教養科目を本科生に履修させることは、学生の資質を高めることを狙っている。

第三に、学部の必修科目がさらに圧縮され、選択科目が増加した。

第四に、図書館学専攻と情報学専攻の科目構成はほぼ同じになり、その専攻毎の特徴がほとんど薄らいだ。

第五，伝統的な図書館学の科目がさらに減らされ，電子技術などの科目が増加した。

表 5 北京大学信息管理系図書館学専攻のカリキュラム

新カリキュラム(2003年度)	
必修科目	<p>大学英語(一)(2), 大学英語(二)(2), 大学英語(三)(2), 大学英語(四)(2), 思想道德教養(2), 毛沢東思想概論(2), マルクス主義哲学原理(2), マルクス主義政治経済学原理(2), 鄧小平理論(2), 計算概論(3), データ構造(3), 軍事理論(2), 体育(4)〔以上は全校必修科目 30 単位〕。</p> <p>高等数学(B)(一)(理科)(5), 高等数学(B)(二)(理科)(5), 文科高等数学(文科)(4), 文科高等数学(文科)(4), 情報管理概論(2), プログラム設計言語(2), データベース・システム(3), 情報組織(4), 調査と統計方法(2), 情報政策と法規(2), 情報分析と方策(3), 情報サービス(2), コンピュータネットワーク(3), デジタル図書館(3), 社会科学文献資源と検索利用(2), 外国語参考図書(2), 図書館管理(2), 図書館オートメーション(2), 中国古典籍資源(2), 情報資源構築(2), 文献目録(2)〔学部必修科目 50 単位〕 実習(無単位), 卒業論文(6)</p>
選択科目	<p>管理学原理(3), 中国語情報処理(3), コミュニケーション原理(2), オフィス・オートメーション(3), ネットワークの情報利用(2), 広告学概論(2), メディアと社会(2), 情報の保存と検索(4), 情報システム分析と設計(2), 管理情報システム(3), 情報経済学(2), 専門英語(2), 情報環境論(2), 広告実務(2), マルチメディア技術(2), ネットワーク管理(2), 情報安全(2), 電子出版技術(2), マーケティング(2), 電子ビジネス(2), 企業と政務の情報化(2), 知識組織の理論と技術(2), ネットワーク情報資源の組織(2), 人類情報学(2), 中国文化史(2), 著作権法(2), 普通目録学(2), 出版文化学(2), 出版企画と出版編集実務(2), 一次代数C(3), 確率統計B(3), 大学国文(4)〔総計 40 単位〕</p>
教養科目	<p>数学および自然科学類(2以上), 社会科学類(2以上), 哲学および心理学類(2以上), 歴史学類(2以上), 言語, 文学および芸術類(そのうちの1科目は芸術類の科目)(4以上)〔総計 16 単位〕</p>

注：2003 年度のカリキュラムによると，4 年間で 142 単位以上を修得しなければならない。その中に必修科目 80 単位，選択科目 40 単位，本科教養科目 16 単位をそれぞれ修得しなければならない。資料の出所は北京大学信息管理系 2003 年度教育カリキュラムによる。

表 6 北京大学信息管理系情報学専攻のカリキュラム

新カリキュラム(2003年度)	
必修科目	大学英语(一)(2), 大学英语(二)(2), 大学英语(三)(2), 大学英语(四)(2), 思想道德教養(2), 毛沢東思想概論(2), マルクス主義哲学原理(2), マルクス主義政治経済学原理(2), 鄧小平理論(2), 計算概論(3), データ構造(3), 軍事理論(2), 体育(4)〔以上は全校必修科目 30 単位〕 高等数学(B)(一)(理科)(5), 高等数学(B)(二)(理科)(5), 文科高等数学(文科)(4), 文科高等数学(文科)(4), 情報管理概論(2), プログラム設計言語(2), データベース・システム(3), 情報組織(4), 調査と統計方法(2), 情報の保存と検索(4), 情報政策と法規(2), 情報分析と方策(3), 情報サービス(2), コンピュータネットワーク(3), デジタル図書館(3), 情報システム分析と設計(2), 管理情報システム(3)〔学部必修科目 45 単位〕実習(無単位), 卒業論文(6)
選択科目	管理学原理(3), 中国語情報処理(3), コミュニケーション原理(2), オフィス・オートメーション(3), ネットワークの情報利用(2), 広告学概論(2), メディアと社会(2), 情報経済学(2), 専門英語(2), 情報環境論(2), 広告実務(2), マルチメディア技術(2), ネットワーク管理(2), 情報安全(2), 電子出版技術(2), マーケティング(2), 電子ビジネス(2), 企業と政務の情報化(2), 知識組織の理論と技術(2), ネットワーク情報資源の組織(2), 人類情報学(2), 中国文化史(2), 社会科学文献資源と検索利用(2), 外国語参考図書(2), 著作権法(2), 普通目録学(2), 出版文化学(2), 出版企画と出版編集実務(2), 図書館管理(2), 図書館オートメーション(2), 中国古典籍資源(2), 情報資源構築(2), 文献目録(2), 一次代数C(3), 確率統計B(3), 大学国文(4)〔総計 35 単位〕
教養科目	数学および自然科学類(2以上), 社会科学類(2以上), 哲学および心理学類(2以上), 歴史学類(2以上), 言語, 文学および芸術類(そのうちの1科目は芸術類の科目)(4以上)〔総計 16 単位〕

注：2003 年度のカリキュラムによると，4 年間で 142 単位以上を修得しなければならない。その中に必修科目 80 単位，選択科目 40 単位，本科教養科目 16 単位をそれぞれ修得しなければならない。

資料の出所は北京大学信息管理系 2003 年度教育カリキュラムによる。

3.2.3 北京大学信息管理系の学部卒業生と大学院生の就職動向

北京大学信息管理系の卒業調査票に基づいて，2002 年度から 2004 年度の学部卒業生と大学院修士課程および博士課程を修了した学生の就職状況について整理した(表 7 表 8, 表 9 を参照)。

表 7 北京大学信息管理系の学部卒業生就職の動向

卒業年	2002	2003	2004
卒業生総数	45	48	42
大学院	22	22	28
自費留学	10	2	1
図書館	0	1	3
情報所・研究所	2	3	-
高等教育機関教員	-	1	-
出版社	1	2	-
政府機関	-	3	-
塾	1	-	-
大学本科(別の専攻)	-	1	-
会社・企業	8	10	7
留年	-	-	1
不明	1	3	2

資料の出所は北京大学信息管理系の卒業調査票に基づいて作成したもの。

北京大学信息管理系の学部卒業生のうち、1986年から1988年の間、90%以上が図書館に配属されていたが、2002年から2004年の間には図書館に就職した卒業生がわずか2.9%に激減した。そのほか、情報関係機関は3.7%であった。これに対して、学部卒業後、大学院に進学したものは約55.5%に達した。また、留学したものは9.6%で、企業に就職したものは18.5%であった。図書館や情報関係機関への就職率の低さは、卒業生が図書館や情報機関への就職を敬遠していることと、大都会の図書館のポストが限られていることによる。

表8 北京大学信息管理系の修士大学院生就職の動向

修了年	2002	2003	2004
修了生総数	18	27	39
大学院博士課程	1	1	1
自費留学	2	4	3
図書館	2	3	2
情報所・研究所	2	1	1
出版社	1	1	-
情報センター・計算機センター	2	-	2
マスコミ機関	1	-	-
政府機関	-	2	1
高等教育機関教員	-	-	1
会社・企業	6	9	19
高等教育機関職員	-	2	1
銀行、裁判所	1	1	3
学会・協会など	-	2	1
企業経営	-	-	1
不明	-	1	3

資料の出所は北京大学信息管理系の卒業調査票に基づいて作成したもの。

学部卒業生に比べると、修士大学院生の就職が比較的公司や企業に集中しており、約40%を占める。そのほか、多くのものが図書館や政府機関、銀行などに就職するようになっている。修士大学院生に比べると、博士大学院生はそのほとんどが大学と研究機関に就職している。

表9 北京大学信息管理系の博士大学院生就職の動向

修了年	2002	2003	2004
修了生総数	4	15	4
高等教育機関教員	3	7	2
情報所・研究所	1	4	1
情報センター・計算機センター	-	1	-
図書館	-	1	1
不明	-	2	-

資料の出所は北京大学信息管理系の卒業調査票に基づいて作成したもの。

3.2.4 中国における図書館員の専門職制度および資格認定の動き

中国の図書館員は一般職員と専門職員に分けられ、専門職員はまた管理員、助理館員、館員、副研究館員と研究館員という五つのランクに分けられている。このシステムは、職員の学歴や学術レベル、業務能力および業績などに応じ、審査を行い、専門職務に昇進させるものである²⁰⁾。例えば、短大卒で一年の見習期間後、管理員となる。一年見習の大学卒業生または同等学歴の者は助理館員となる資格がある。また、助理館員は5年後、副研究館員となり、副研究館員はさらに5年後、研究館員となる資格がある。1981年に「図書、档案²¹⁾、資料專業幹部業務職務に関する暫定規定」が実施され、既に24年が過ぎて

いる。この制度は図書館員になる資格と関係なく、図書館員になったあとの職務の昇進に深く関わっている。そのため、近年になって、図書館員になる資格が必要かどうかをめぐって、図書館職業資格認定制度の導入について広く議論が重ねられている²²⁾。この資格認定制度の導入は表面的にはまだ議論の段階にとどまっているが、既に実質的な動きが出ている。その一つは現在、国家レベルで審議されている「中国図書館法」と直接関係がある。「中国図書館法」の中には明確に「国家は統一した図書館職業資格認定制度を確立し、図書館員の生涯教育を推進させる」という規定が盛り込まれている。また、これに関する国家重点科学プロジェクトが既にスタートし、中国国家図書館の前副館長が責任者となり、政府職員、大学の研究者、現場の図書館員とともに資格認定制度の導入についての研究を進めている。

4. 中国における図書館情報学教育の課題および展望

4.1 図書館情報学の学部レベル教育の問題

近年、図書館情報学の学部教育レベルにおいていくつかの問題点が現れている。一つは一部の大学は図書館情報学専攻、特に図書館学専攻の学生定員を減らしたり、一年おきに学生を募集したりしており、全体的に図書館情報学専攻の学生募集規模が減少していることである。二つめは図書館情報学専攻を応募する学生が減少し、特に第一希望で図書館情報学専攻に入学する学生が大幅に減ったことである。そのため、第一希望で入学できず、やむを得ず図書館情報学専攻に回される学生が増えている。三つめは図書館情報学部または学科に入学した学生が別の学部や学科に転部、転科することがよく見られるようになったことである。四つめは図書館情報学専攻に籍をおきながら、第二の専攻、例えば、経済学や計算機専攻の学習により多くの時間を割き、力を入れていることである。そのため、多くの大学の図書館情報学部または学科はこれらの問題点への対応に悩んでいる。

4.2 カリキュラム編成の問題

1998年10月に「全国大学信息管理専攻教育フォーラム」が開かれ、全国の37の大学から46名の代表が参加した。この会議で管理学原理、経済学、信息管理学、データ構造とデータベース、情報組織、情報保存と検索、コンピュータ・ネットワーク、管理情報システムの8科目が図書館情報学専攻のコア科目に指定された²³⁾。しかし、これらのコア科目がどのような根拠で指定されたのか、不明確であるし、強制的に設置を求められるコア科目でもない。また、科目の名称は同じだとしても、各大学の講義の具体的内容は様々である。さらにいえば、これらのコア科目ははたして図書館情報学の学問や特色をよく反映しているかどうか、が問題となる。

たしかに、近年、図書館情報学部の卒業生の多くは企業などで働くようになったことを受けて、多くの大学の図書館情報学部または学科はコンピュータ、データベース、ネットワーク、マルチメディアおよびデジタル図書館などの専攻科目を大幅に増やしたり、経済管理、マーケティング、電子ビジネスなどの経済関係の科目を新設したりして、社会の発展動向に対応しようとしている。その反面、図書館情報学の伝統的な科目が大幅に減らされることになった。そのことで、図書館情報学教育の特色が弱まっているとも指摘されている。

4.3 国家教育部による図書館情報学専攻目録の選定

中国は社会情勢や学問の発展状況などに応じて一定期間ごとに大学における専門（専

攻) 目録²⁴⁾を改訂し, その専攻の養成目標や養成基準, コア科目, 実習科目および修業年限などを規定している。この専攻目録が専門教育活動を行なう際の綱領となっている。国家教育部による専攻目録の選定はその学問分野の発展に大きな影響がある。この専攻目録に登録されなかったり, またはランクが下げられたりすれば, その学問分野の発展には極めて重大な影響をもたらすことになる。その意味で, 特に専攻目録の公布が重視されている。

1993年に専攻目録の改訂が行なわれた。初めて情報学が信息学に改称された。改訂前の専攻目録には図書館学と情報学が並列され, 理学に所属する1等級学科となっていた。調整後の専攻目録には図書館学, 情報学, 档案学と図書出版発行学を合わせて一つの学科群となり, 「図書信息档案学類」と称され, 歴史学に所属することになった。

また, 1997年に中国国务院学位委員会は図書館情報学大学院の専攻目録を調整し, 図書館学, 情報学および档案学を新しく置かれた管理学学科部類に入れることになった。そのことで, 図書館情報学の管理学色彩をより鮮明なものにした²⁵⁾。それを受けて, 1998年に教育部は新しく改訂した学部の専攻目録を公布した。これにより, 図書館学専攻と档案学専攻が1等級学科の「図書档案学類」の2等級学科となり, 管理学学科部類に入れられた。ところが, 情報学専攻は前の科学技术情報, 経済情報管理, 管理情報システム, 林業情報管理をあわせて, 「情報管理と情報システム」となり, 1等級学科の「管理科学と工事類」の2等級学科に入れられた²⁶⁾。これにより, 図書館学と情報学が分離される傾向となり, また, 大学院の専攻目録と学部の専攻目録は連続性を失うこととなった。

近年, また新たな動きが出ている。2004年5月, 全国の図書館情報学部責任者連合会議が開かれ, この会合で図書館学専攻, 情報学専攻および档案学専攻などを含めた「信息資源管理」を1等級学科として編成することが提案され, 国务院学位委員会と教育部に積極的に働きかけることになった。

4.4 図書館職業資格認定制度の導入に伴う育成訓練教育実施の可能性

中国が図書館職業資格認定制度を導入し, 制度的に図書館員の継続教育を推進することになれば, 今後の図書館情報学教育にまた新たなチャンスをもたらすものと考えられる。図書館職業資格認定制度が導入されれば, 資格認定試験を受験するための育成訓練教育を実施する可能性が高くなる。現在, 多くの図書館情報学研究者は, その育成訓練教育を大学の図書館情報学部を主体とする教育機関において実施すべきだと強く主張している。また, 図書館員の継続教育に関しては, 図書館情報学教育機関は大いに貢献できる。

4.5 図書館情報学専攻大学院教育の拡大

学部学生の応募者数が減少していると反対に, 近年, 図書館情報学の大学院教育が拡大している。第一には, 図書館情報学の大学院修士課程の設置が増えていることである(附表2を参照)。第二は, 大学院学生の募集定員が大幅に増加していて, 一部の大学では大学院学生の募集定員が学部学生の募集定員とほぼ同じとなり, 図書館情報学の大学院教育に力が注がれている。第三は, 在職の社会人を募集対象とする図書館情報学専攻の大学院クラスが増えていることがある。これらの現象は北京大学や武漢大学などのようないわゆる重点大学においてより鮮明になっている。また, 中国の教育部や各大学は図書館情報学大学院教育の拡大を支援している。今後, 大学院における図書館情報学教育の一層の発展が期待される。

おわりに

中国において近代的図書館の誕生してから 100 年が過ぎ、それに伴い生まれた図書館情報学教育は既に 90 年を経過した。過去を振り返ってみると、図書館情報学教育は正に中国の社会とともに、さまざまな政治運動や社会的混乱を体験してきた。その発展途上において、大きな挫折や破壊を蒙ったのである。それらを乗り越え、現在、図書館情報学教育は大きく成長し、中国の高等教育に欠かせない一部分となり、社会の発展に貢献している。

たしかに 1990 年代以降、中国の図書館情報学教育はこれまでにない大きな挑戦に遭遇し、さまざまな新しい問題に直面している。また、図書館情報学教育は極めて困難な状況に置かれながらも、その一方でさまざまな改革が模索されている。そして、今後、図書館情報学教育がどのように発展していくか、不透明なところが少なくない。しかし、図書館情報学教育への期待は大きい。図書館情報学研究者および図書館情報学教育に携わる人々は、力を合わせて、この難局を乗り越えるために叢智を結集し、行動しなければならない。

注・引用文献

- 1) 金敏甫「中国現代図書館教育述略」『武昌文華図書科季刊』Vol. 2, No. 4, 1930, p. 1-3.
- 2) 金敏甫, 前掲 1), p. 1-3.
- 3) 張錦郎, 黃淵泉『中国近六十年来図書館事業大事記』台湾, 商務印書館, 1975, p. 23.
- 4) 羅友松等「試評中華図書館協会的歴史作用」『図書館学通讯』Vol. 1, No. 2, 1981, p. 23.
- 5) ウッド女史(韋棣華)と武昌文華大学図書科について、次の論文を参照。
黄宗忠「武汉大学図書館学系六十年 兼評文華図專和韋棣華在我国図書館事業史上的作用」『武汉大学学报(哲学社会科学版)』No. 6, 1980, p. 78-85.
- 6) 黄宗忠, 前掲 5), p. 78.
- 7) 院系調整は中国政府がソ連の高等教育システムを学び、1952 年から全国の大学および学部を全面的に調整したことを指す。その調整の内容は主に大学および学部の合併や大学の増設、専攻の調整などが含まれ、大学の教職員や校舎および設備などが中央政府によって統一的に配分された。
- 8) 黄宗忠, 前掲 5), p. 78.
- 9) 中国大百科全書『図書館学情報学档案学』編輯委員会『中国大百科全書・図書館学情報学档案学・』北京, 中国大百科全書出版社, 1993, p. 10.
- 10) 吳慰慈「新中国図書館事業建設的主要成就(記念建国三十五周年 図書館專輯(二))」『図書館学通讯』No. 1, 1985, p. 6.
- 11) 四人組は文化大革命で極左路線をとった江青、張春橋、王洪文、姚文元の 4 人グループを指す。
- 12) 当代中国的図書館事業編集委員会『当代中国的図書館事業』(当代中国叢書) 北京, 当代中国出版社, 1995, p. 56-57.
- 13) 董小英「我国図書館学情報学教育的伝型及其問題」『中国図書館学报』Vol. 22, No. 101, Jan 1996, p. 28-29.
- 14) 函授教育: A. 高校卒以上レベルの在職者またはそれと同等レベルの学歴を持つ者は、通信教育の国家統一試験を受ける。B. 授業方式は統一の教科書を使い、独学を主とし、一定期間の集中講義を輔とする教育方式が採用される。C. 三年制(日本の短大に近い)と本科に別れ、本科の一部の優秀な卒業生に限って学士号が与えられる。D. その学歴が国家によって認められる。
- 15) 1985 年に中央放送大学の図書館学科が設置されたが、近年になって、図書館学科の

学生募集が停止したままになっている。

- 16) 次の論文を参照。李常慶「中国の図書館情報学の最近の動向」『図書館情報学のアイデンティティ』(論集・図書館情報学研究の歩み 第18集)日本図書館情報学会研究委員会編,東京,日外アソシエーツ,1998,p.175-186.
- 17) 董小英,前掲13), p.30.
- 18) 岳劍波「走向信息時代的図書館学情報学教育」『中国図書館学報』Vol.19, No.86, Apr 1993, p.71.
- 19) 大学の合併および学部の統合は,1990年代の半ばごろから始まり,これまでに採用したソ連の高等教育システムを変え,欧米などの高等教育システムを導入することで,大学間の合併および学部の統合による学院の設立などの動きが全国的に現れた。
- 20) 王紹平等『図書情報詞典』上海,漢語大詞典出版社,1990,p.551.
- 21) 档案は日本語で言えば「文書」あるいは「記録」にあたる言葉である。従って档案学は,文書館学,記録史料学,記録管理学などを包括する概念と考える。
- 22) 王世偉「論中国図書館職業資格証認書制度的建立」『図書情報工作』No.1,2003,p.7-10.
- 23) 吳慰慈「中国における図書館情報学教育の現状」『JOURNAL OF LIBRARY AND INFORMATION SCIENCE』Vol.13, 2001, p.25.
- 24) 専門目録:専攻の区分,名称および所属部類を規定し,人の養成を行う業務規格と業務方向などを反映するものである。これは,専攻の設置と調整,専門要員の養成,学位の授与,新入生の募集,卒業生の就職指導,教育統計及び人材予測などの重要な根拠でもあり,高等教育に対する国家のマクロ管理の基本的な指導性のある公文書でもある。
- 25) 国务院学位委員会? 公室,教育部研究生? 公室『授予博士硕士学位和培养研究生的学科專業簡介(1997年頒布)』北京,高等教育出版社,1997,p.6.
- 26) 中華人民共和國教育部高等教育司『普通高等学校本科專業目録和專業介紹(1998年頒布)』北京,高等教育出版社,1998,p.9.

附表 1 中国図書館情報学高等教育機関一覧表

番号	名称	主管部門	所在地	成立年月
1	北京大学信息管理系	国家教育部	北京	1947年
2	武汉大学信息管理系	国家教育部	武昌	1920年
3	南京大学公共管理学院信息管理系	国家教育部	南京	1927年
4	南開大学国際商学院図書館学系	国家教育部	天津	1984年
5	中山大学信息科技学院信息管理系	国家教育部	広州	1980年
6	四川大学公共管理学院信息管理系	国家教育部	成都	1984年
7	蘭州大学経済管理学院信息管理系	国家教育部	蘭州	1980年
8	山東大学管理学院信息管理系	国家教育部	済南	1985年
9	中国科技大学信息技术与决策科学系	国家教育部	合肥	1986年
10	浙江大学歴史系図書館学専業	国家教育部	杭州	1984年
11	北京外国語大学英语信息管理系	国家教育部	北京	1985年
12	吉林大学管理学院信息管理系	国家教育部	長春	1985年
13	北京師範大学管理学院信息技术与管理系	国家教育部	北京	1980年
14	東北師範大学信息伝播与管理学院	国家教育部	長春	1960年
15	華東師範大学国際商学院信息学系	国家教育部	上海	1979年
16	西南師範大学計算機与信息科学学院信息管理系	国家教育部	重慶	1983年
17	華中師範大学信息管理系	国家教育部	武昌	1985年
18	福建師範大学歴史学系社会学系図書館学専業	省教育厅	福州	1981年
19	華南師範大学信息管理系	省高等教育局	広州	1983年
20	遼寧師範大学信息管理系	省高等教育局	大連	1985年
21	黒龍江大学信息管理系	省教育厅	ハルビン	1985年
22	鄭州大学信息管理系	省教育厅	鄭州	1985年
23	河北大学管理学院信息管理系	省教育厅	保定	1984年
24	湘潭大学管理学院信息管理系	省教育厅	湘潭	1984年
25	安徽大学管理学院信息管理系	省教育厅	合肥	1979年
26	雲南大学人文学院信息管理系	省教育厅	昆明	1980年
27	山西大学経済管理学院信息管理系	省教育厅	太原	1978年
28	西北大学公共管理学院図書館学档案学系		西安	1984年
29	中南大学医学技術与情報学院	国家衛生部	長沙	1986年
30	上海大学文献信息管理系	市高等教育局	上海	1978年
31	南京政治学院上海分院信息管理系	総参謀部	上海	1985年
32	天津師範大学信息産業学系	市教育局	天津	1979年
33	西安交通大学管理学院信息管理系	国家教育部	西安	1983年
34	南京農業大学信息管理系	国家農業部	南京	1984年
35	中国人民大学档案学院政務信息管理系	国家教育部	北京	1986年
36	西安電子科技大学経済管理学院信息管理系	情報産業部	西安	1981年

表 1 は、中国教育部図書館学学科教学指導委員会第二次工作会議資料（2003年4月まで）による。但し、簡体字は繁体字に直してある。

附表2 図書館学情報学档案学専攻の修士・博士学位授与機関

学位授与機関の名称	修士学位授与機関			博士学位授与機関		
	図書館学	情報学	档案学	図書館学	情報学	档案学
北京大学信息管理系	1981	1986		1990	1998	
武汉大学信息管理学院	1981	1984	1998	1993	1990	
南京大学信息管理系	1986	1993	1997		1996	
中国科学院文献情报中心	1986	1986		1993		
中国科技信息研究所		1984				
中国国防科技信息中心		1986				
南開大学図書館学系	1986	2000				
中山大学信息管理系	1990	2000	1993			
華東師範大学信息学系	1984(廃止)	1997				
中国人民大学档案学院	1998	2000	1984			1993
吉林大学管理学院信息管理系	2000	1986	2000		2000	
南京政治学院上海分院信息管理系	1990		1995			
東北師範大学信息伝播与管理学院	1996	2000				
中国軍事医学科学院		1992				
中国協和医科大学医学信息研究所		1990				
北京師範大学信息技术与管理系	2000	1993				
中国航空航天研究院 628 所		1990				
中国中医研究院情报所		1986				
南京理工大学經濟管理学院信息管理系		1993				
西安電子科技大学經濟管理学院信息管理系		1998				
上海交通大学情报研究所		1996				
黒龍江大学信息管理学院		1998				
中南大学医学技術与情報学院		1996				
天津師範大学信息産業学系		1998				
上海大学信息与工程管理系		1997				
蘭州大学經濟管理学院信息管理系		2000				
南京農業大学信息管理系		2000				
華中師範大学信息管理系		2000				
河北大学管理学院信息管理系	2000					
湘潭大学管理学院信息管理系	1998					
山西大学經濟管理学院信息管理系	1998					
四川大学公共管理学院信息管理系	1998		2000			
華南師範大学信息管理系	2000					
鄭州大学信息管理系	1998					
第二軍医大学図書館		2000				
第四軍医大学図書館	2000					
雲南大学人文学院信息管理系			1998			
浙江大学歴史系図書館学専業			2000			
安徽大学管理学院信息管理系			2000			
遼寧師範大学信息管理系			2000			
広西民族学院			2000			
学位授与機関合計数	18	28	12	3	4	1

表2は、中国国务院学位委員会? 公室『中国学位授与単位名冊』北京,中国科学技術出版社,2001年による。但し,簡体字は繁体字に直してある。

李常慶先生の略歴

国籍：中国

学歴：

1982年7月 四川大学外国言語文学学部日本語文学学科卒

1987年3月 日本図書館情報大学大学院修士課程修了

1992年3月 東京大学大学院教育行政学科博士課程単位取得退学

勤務歴：

1982-1985 四川大学図書館勤務

1992-1994 日外アソシエーツ株式会社勤務

1996-1999 北京大学信息管理学部専任講師

1999-現在 北京大学信息管理学部専任助教授

研究関心領域

図書館情報学（図書館情報学教育、情報資源の開発）

出版産業論（出版流通、出版文化）